

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

胴串 -どぐし-

Summer 2023

Vol.42

特集

伝統を守り、つなぐ
飯田の伝統人形芝居



伝統を守り、つなぐ 飯田の伝統人形芝居

飯田に人形浄瑠璃が伝えられたのは今からおよそ300年前。多くの人たちが旅の一座から人形の遣い方などを教わり、それはやがて祭りへと結びつき、現代に伝えられてきました。国選択無形民俗文化財の黒田人形・今田人形、地域の子どもや若者たちによって継承される飯田の伝統人形芝居を追いました。

今春、活動再開した伊豆木人形クラブ

飯田市三穂地区に古くから伝わる「伊豆木人形」。人形のかしらは保存されていたものの上演は途絶えていましたが、平成19年に地域の宝を復活させようと声があがり、小中学生8人により伊豆木人形クラブが誕生しました。三穂地区の成人式や文化祭、いいた人形劇フェスタほか、平成29年には台湾の雲林国際人形劇祭で上演するなど、設立から10年の間で活動の幅が広がりました。

しかし、令和4年8月に地域のクラブ員の減少により継続が難しく、しばらく活動を休止することに。「子どもたちだけでは活動に限界があると感じ、年齢を問わずクラブ員を募ったところ、大人の参加がありました」と、三穂公民館主事の伊藤愛さん。今年4月から小中学生6人、大人6人の12人で活動を再開しました。

月2回、三穂公民館で行われる練習には、かつてクラブ員だった20代の若者4人の姿がありました。「クラブ員募集のチラシを見て、このまま活動が止まってしまうのは残念。だったら自分がやろうと迷うことなく参加を決めた」と話す林亜美さん。クラブ復活後、初の舞台となるのは8月のいいた人形劇フェスタ。上演する「三番叟」の練習に熱が入ります。中学3年生以来8年ぶりに人形を持つという木下翔太さんは「子どもころ繰り返し練習していたので人形の動きや型が体に染みついていたみたい」とブランクを感じさせません。

「今後も参加を呼び掛け、活動を通して地域の魅力を発信したい」と三穂公民館長の林宗男さん。地域ぐるみで伊豆木人形クラブを支え、盛り上げます。

飯田市三穂地区に伝わる伊豆木人形。江戸時代後期にこの地を治めていた小笠原氏が民衆に人形のかしらを分け与えたのが始まりとされる。「伊豆木天満宮」には専用の舞台が設けられるほど親しまれていたが、大正初期に途切れたといわれている。

◆伊豆木人形クラブ『三番叟』8/6(日)10:00 三穂小学校体育館



伝統を守り、伝えたいと伊豆木人形クラブに参加する20代の若者たち。小中学生と一緒に練習に励みます



指導にあたる今田人形座の木下文子さん、木下雪比古さん(写真右)。「大人になったみんなにまた伊豆木人形に関わってもらえることで、以前より一歩進んだ指導ができることがうれしいです」



フェスタで上演前の口上を担当する増田陽夏汰さん(三穂小6年)

研修で技術の習得と向上をめざす

飯田市で継承される黒田人形と今田人形は、人形遣い、太夫、三味線が三位一体となって演じる伝統人形芝居の技術習得と向上を目指し、伊那人形芝居保存協議会が行う三味線・義太夫の研修を年2回受けています。コロナ禍でやむを得ず中止になったこともありましたが、座員は各自の目標をもって臨みます。黒田人形保存会の牧内美恵さんは三味線の研修外題に「玉藻前旭袂 道春館の段」を選びました。「この先上演する計画があるので今から勉強です。節、間、指づかい、バチづかい……すべてをつひとつ、丁寧に指導いただきたいです」。

黒田人形、今田人形ともに課題といわれるのが後継者不足。研修を取りまとめる伊那人形芝居保存協議会事務局の清水謙一さんは「研修を続けることで技術の習得や向上だけでなく、後継者の育成につなげたい。知恵と工夫で保存、継承していくのが今の自分たちの役目だと思っています」。



三味線の指導は鶴澤寛輔師匠(重要無形文化財義太夫節総合指定保持者)「飯田は心あたたい人が多から、何十年と通ってしまうの」



義太夫の指導は文楽の鶴澤清志郎師匠。今田人形座シニアの出身です。ふるさと飯田の伝統文化の継承のために私にできることがあつてうれい

※写真はいずれも令和4年の研修会にて

伊那谷に継承される伝統人形芝居

◆黒田人形保存会

元禄年間(1688～1703)から300年余続くとされる黒田人形は、淡路の昔の技が伝承されています。昭和28年に黒田人形保存会が結成され、伝統の継承に努めています。

『観音霊験記 壺坂寺の段』
8/6(日)10:00
黒田人形浄瑠璃伝承館



◆今田人形座

1704年(宝永元年)に始まったとされる今田人形。毎年、龍江の大宮八幡神社秋季大祭の奉納公演宵宮では、電気ではなく和ろうそくの灯りで作品が上演されます。

『壺坂霊験記 山の段』
8/6(日)13:00
今田人形の館



地元中学生も文化の継承、上演に挑戦

◆高陵中学校黒田人形部

今年4月には下黒田諏訪神社の奉納公演に出演。1年から3年まで14人の部員が黒田人形保存会の指導を受け、人形の遣い、三味線、義太夫を学び、上演しています。

『傾城阿波の鳴門 順礼歌の段』
8/6(日)10:00
黒田人形浄瑠璃伝承館



◆竜峡中学校今田人形座

1年生から3年生の24人が総合の授業で取り組み、今田人形座から人形の遣いや義太夫を学び、夏のフェスタや秋の奉納公演などで上演しています。

『伽羅先代萩 政岡忠義の段』
8/5(土)14:00
黒田人形浄瑠璃伝承館



文化の砦・素敵な飯田の人々

パネルシアターばねるんるん
松橋富美子



大人も子どもも楽しめるドラマチックな作品をつくっています。
写真右が筆者

「日本中の人形劇団が集まって勉強になるよ」と聞き、「行ってみようか」。どうせ行くなら演じてみたいね「何も知らずに申込んだのが始まり。はまってしまいました！」

様々な地域での公演。どれも印象深いものでした。山の公民館で夜なのに子供達が大勢集まってくれたり、合唱や踊りを見せてくれたり、飲んでパネル大人ゲームで盛り上がったり。

一緒に演じた他

劇団の人形劇、影絵、パントマイム等々の様々な表現との出会い。ホール夜の劇場。アダルト昔話（どいつもこいつも！）、戦争物（泣いていた）等のパネルシアターをあたたかく見ていた



いいだ人形劇フェスタ2017で上演した「アンヌと魔法使い」

だいて嬉しかったです。色々な劇人の方々の形にとらわれない表現は、飯田の夜ならではの魅力的な世界でまさに異文化交流！

兎に角、飯田の方達子供達は、表現文化を見る力・受け止める力が素晴らしいと思います。飯田という地域が、この文化を大切に、長い時間愛し、育て、その豊かさが子供達や人々の心と体の中に沁み込んでいるのだなと感じました。

今日本も貧しい子供達が増え、それがそのまま文化の貧しさに繋がっている。生の表現文化にふれる機会もお金も少ない。飯田フェスタは日本の豊かな文化の砦だ！とマジで思っています。

次号は「にんぎょげき団」の荒木文子さんです

すべての道は飯田へ通ず

第31回

Library Cafe

飯田とつながる世界の人形劇図書資料から④

コードモノクニ 4巻1号

『コードモノクニ』は1922年創刊。「現代人形劇」の嚆矢は翌1923年で、ちょうど100年前のこと。武井武雄、初山滋を始め一流作家たちの手による子ども雑誌は、まったく新しい世界を創りだした。初めて人形劇が取上げられたこの号は、倉橋惣三案、坪内逍遙脚本、岡本帰一絵という豪華顔ぶれの超大判組上絵「コードモノクニ人形芝居」が附録だが、紙を切抜くからほぼ現存せず、人形劇が一気に花開きかけともなった。そして「現代人形劇の100年」の歴史のほぼ半分に、「いいだ人形劇フェスタ」45年の存在があるのです。今回フェスタの、人形劇の図書館自主企画展示「現代人形劇の100年」でこの「附録・コードモノクニ人形芝居」の実物を展示!!

(人形劇の図書館館長・湯見英明)



大正14(1925)年1月号

海外フェスティバルレポート

マテジンカフェスティバル

いいだ人形劇センター事務局長 木田 敬貴



初日のパレード。雨の中、地元の子どもたちが仮装して出発(劇場前)



「今日は赤ずきんのおばあちゃんの誕生日」終演後の舞台

6月13日(火)から17日(土)の5日間開催されたりベレツのマテジンカフェスティバルに行ってきました。リベレツはチェコ北部に位置し、人口は飯田と同じ約10万人。小さな子どもたちのための作品を集めたプロ劇団による国際人形劇フェスティバルです。マスコットは子どもたちが大好きな象。フェスティバル期間中は地元の幼稚園の団体鑑賞があったり、ファミリーが見に来たりしています。また見本市の要素があり、海外のフェスティバルディレクターも多く参加しています。

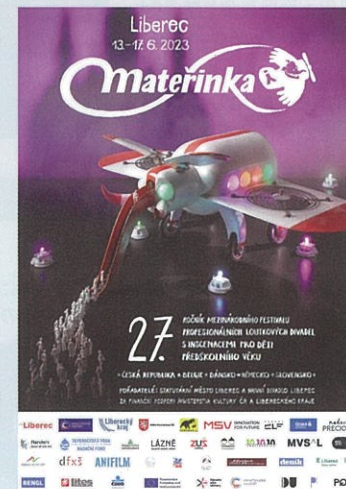
今回面白かったのはナイブ人形劇場の新作「今日は赤ずきんのおばあちゃんの誕生日」です。現代の赤ずきんは核家族の一人子で、仕事忙しい両親に相手にしてもらえず、おばあちゃん

誕生日に一人で森に向かいます。それ以降はみなさんご存じのとおり(中略)。そして両親も赤ずきんを探しに行きますが、すぐに食べられてしまいます。ではオオカミのお腹の中からどうやって脱出するのでしょうか。おばあさんが持っていたスマホで連絡をして助けてもらいます。最後におばあさんが家族写真を自撮りしてめでたしめでたし。ストーリーだけではなく、マリネットの舞台や人形にもさまざまな工夫がありました。舞台床の前方には回転式の装置があり、ハンドルを回して吹き替えのオオカミと赤ずきんが追いかけていきます。オオカミの口は丸ごと人形をのみこむ仕掛けになっていて、のみこまれた人形のコントローラーがオオ

カミの口から少しはみ出るところが何ともユーモアがあって面白かったです。他にも自然をイメージした空間のなかでゆったりした時間を過ごせるペイビシアターやスマホ・タブレットなどを使って顔のパーツをテーマにした『はなみず』という作品もありました。日本とは異なるカラフルな世界や台詞のない楽しい作品もあり、機会があれば日本の子どもたちにもぜひ見てほしいと思いました。



各国の招待されたメンバーによる集合写真(市庁舎内)



毎回をモチーフにつくれるポスター

“人形劇のまち飯田”から発信

人形劇の楽しさをつたえ、ひろげるワークショップ

昨年からのいい人形劇センターは長野県内各地へ出かける出張講座を始めました。専門的な技術を学べるものから、気軽に人形づくりを体験できるものなど各種プログラムを用意して、人形劇の楽しさを広げていきます。



飯田で行った「ハンドパペットをつくろう」。5月は口がバクバクと動く人形、6月はウレタンとフリースでつくるやわらかな人形を1日で製作。それぞれに表情が異なるユニークな作品が出来上がりました

張り子でお面をつくろう(全4回)

11月18日(土)・19日(日)・25日(土)・26日(日)

いずれも10時～16時30分

場所／飯田文化会館ほか

講師／吉澤亜由美(人形美術家)

料金／4,000円



支援:信州アーツカウンシル(一般財団法人長野県文化振興事業団)

出張ワークショップ

① 9月15日(金) 信毎メディアガーデンまちなかWORKSHOP

ハンドパペットをつくろう

問合せ／信毎メディアガーデン ☎0263-32-1150

② 9月23日(祝土) 下條村立図書館

ウレタンで動物の人形をつくろう

問合せ／下條村立図書館 ☎0260-27-3585

③ 9月29日(金) 松川村すずの音ホール

ハンドパペットをつくろう

問合せ／松川村図書館 ☎0261-62-0450

④ 10月7日(土) 飯山市子ども館きらら

ロリポップパペットをつくって遊ぼう

問合せ／飯山市子ども館きらら ☎0269-67-0167

※同館の利用者対象

※①～③は参加費・材料費が必要です

わかりやすく話す、読むための基礎講座②(全2回)

2024年1月下旬予定

場所／川本喜八郎人形美術館2F映像ホール

講師／佐藤圭代(飯田エフエムパーソナリティ)

料金／1,500円

ダコタのIIDA日記

Journal de Dakota



飯田市の魅力

こんにちは皆さん!

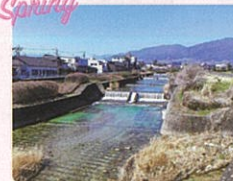
飯田に着いてからもう一年になりました。一年経ったから飯田の色々な景色が見えました。季節ごとに同じ道を通っても雰囲気は全然違いました。夏の青空、秋の紅葉、冬の雪、春の花…別々の世界になります。

最近、川本喜八郎人形美術館の企画展示を見に行きました。テーマはNHKで放送されていた『プリンプリン物語』の人形劇です。小さい頃

ダコタ・ミドウ 2022年5月に仏シャルルヴィール・メジェールから飯田へ。飯田文化会館で通訳や翻訳、海外とのやりとりを担当。飯田での生活の中で見たこと、感じたこと、人との出会いなどを綴ります。

からフランスに住んでいたのも、もちろんプリンプリン物語の人形劇は見たことがないです。でも、プリンプリン物語を知らなくても凄く楽しかったです。個人的な興味はファッションとコスプレだから、人形の衣装の細かさや使っている素材は本当に気になりました。インドから影響を受けた作品ですから、人形の豊かな表情、衣装やアクセサリは本当に素敵でした。

Spring



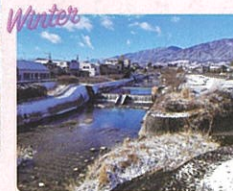
Summer



Autumn



Winter



休みの日は気になる風景を撮影しながら飯田のまちを散策します

人形劇の人形造形の基本 操作人形の基本構造

映像人形劇の世界で長年仕事をしてきた美術家が人形造形の基本を、人形美術のプロを目指す人たちに向けて解説します。

第1回 9/12(火) 第2回 9/26(火)

※いずれも18:30～20:30

場所:ブーク人形劇場

参加費:各回 3,000円

定員:各回 15人



詳細はこちら

のように、5～10年ほど操作の経験を重ねてからセッションの現場に入るのが適当だと考えます。そんな悠長なことはしてられない場合もあるでしょうし、制作スタッフさんが人形を遣う現場も散見しますが、質を求める重要性は共有したいと強く思うのです。

人形劇人協会は、人形劇の表現力が少しでも増すために工夫を重ね、会員の経験をまとめ、ワークショップなど発信を続けていきたいと話合っています。個人加盟の統括団体だからこそ出来ることを、焦らず諦めず取り組んでいきたいです。面白い作品のために!

映像の現場では、セットの位置、カメラの角度、照明の位置等々、その場で決まることと変わることが沢山あります。操作の技術は既に身につけていて、状況に合わせて遣うことが必要です。これまでの例を見ていると、山田さん

続ける姿が描かれています。

山田さんは番組制作会社スタッフとして人形劇番組に参加し、子どものころから大好きだった人形たちの下には人がいた!と我を忘れて転職し、人形劇団ブークに入り、操作の技術を学んで8年後に退団。フリーランスとして映像番組に出演を始め、苦勞を重ねて気付きを重ねて、人形操作を極める姿が描かれています。

劇人協会通信

映像と人形・人形劇 第14

日本人形劇人協会
理事長

友松 正人

日本人形劇人協会
舞台や映像番組で活躍している実演家と人形劇に係わる仕事を職業とする専門人形劇人の組織。人形劇人相互の親睦交流、活動条件の改善と社会的芸術的地位の向上をはかることを目的に1967年に設立されました。

掲示板 いいだ人形劇センター からのお知らせ

フェスタ
期間中は毎日開所
します♪

人形たちとつくる

コミュニティスポット ほっこり

『ほっこり』は、子どもからお年寄りまで多くの方が、気楽に立ち寄って人形づくりや人形を使って遊びながら交流できる居場所です。
気軽にお立ち寄りください。

8月3日(木)～6日(日)

開所時間 ● 12:00～16:00

料 金 ● 一人1回100円

(ワッペン着用の方無料)

※通常の開所日は毎週火曜、第1、3木曜、
第2、4土曜の14:00～17:00です

問 合 せ ● いいだ人形劇センター

☎050-3583-3594



Dogushi

並木 さんぽ

昨年5月、フランスから飯田へやってきたダコタ・ミドウさんが綴る本誌連載『ダコタのIIDA日記』。今号は、季節ごとにほぼ同じ場所で撮影した写真4点が並びました。私たちにとっては馴染みのある風景がこのように切り取られると不思議な感じがします。ダコタさんの目を通してどんな飯田を見られるでしょうか。連載はまだ続きます。

次号は2023年10月発行予定です。(帆)

表紙画:井原千代子



View of IIDA

今春、いいだ人形劇センタープロデュースの新作『ドッコイシヨ劇場』が初披露されました。演じるのは、獅子を舞う男、わたちゃんのほのぼの劇場の名で活動する後藤渉さん。「信州飯田で申すなら、飯田の町をば荒町に……」軽快な飯田街づくし甚句が聞こえてくると人形劇のはじまりはじまり。沖縄の旅芸人が演じる『チョンダラーの長者物語』、滑稽な舞踊が笑いを誘う『ちよるけん』の二本立て。いいだ人形劇フェスタでは8/5(土)川本美術館下、8/6(日)三穂小学校で上演します。

第22回 AVIAMA 人形劇でつながる世界の都市

南あわじ(日本)

兵庫県の淡路島南端に位置する人口42,000人ほどの市です。AVIAMAには、2018年に飯田で開催された総会で加盟しました。室町時代末に起源をもつと言われている淡路人形浄瑠璃が、淡路島を代表する伝統芸能として現在まで伝えられています。

淡路人形浄瑠璃は江戸時代に最盛期を迎え、全国を巡業して人形浄瑠璃の魅力を伝えました。現在も各地に残っている伝統人形芝居の多くは、当時の淡路人形浄瑠璃の影響を受けており、淡路島は人形芝居のルーツと言われています。

明治に入ると、時代の変化から人形芝居は一度衰えますが、伝統を守ろうとする人々により1964年に「淡路人形座」が生まれ、1976年には淡路人形浄瑠璃が国指定重要無形民俗文化財に指定されました。現在も淡路人形座は、人形浄瑠璃の普及や発展のために、公演や指導など様々な活動を行っています。



淡路人形浄瑠璃「戎舞」